

平成27年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町立中学校の生徒の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用及び小問ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。

■ 調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立中学校2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

- 平成27年4月21日（火）

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

		猪名川町全体 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	目標値 (%)	全国平均 との差	受験者数
中学校 2年生	国語	63.0	64.3	63.1	▲ 1.3	351
	数学	65.4	60.7	60.1	4.7	351
	英語B	67.0	62.3	61.4	4.7	351

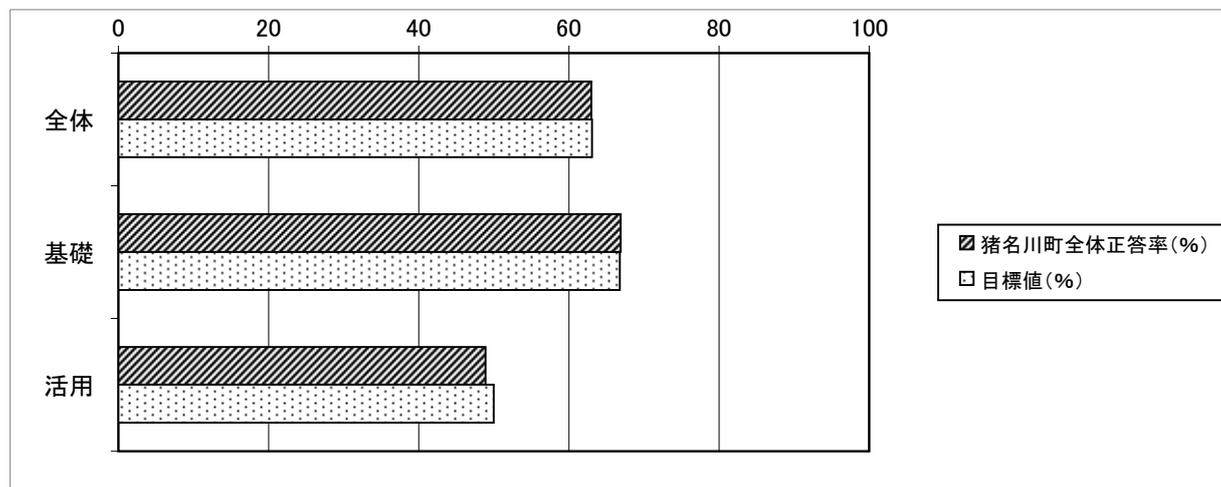
*「目標値」とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

町全体の正答率は、国語・数学・英語とも全国平均と同程度で、良好な状況である。

■ 中学校2年生 国語

(1) 基礎・活用正答率

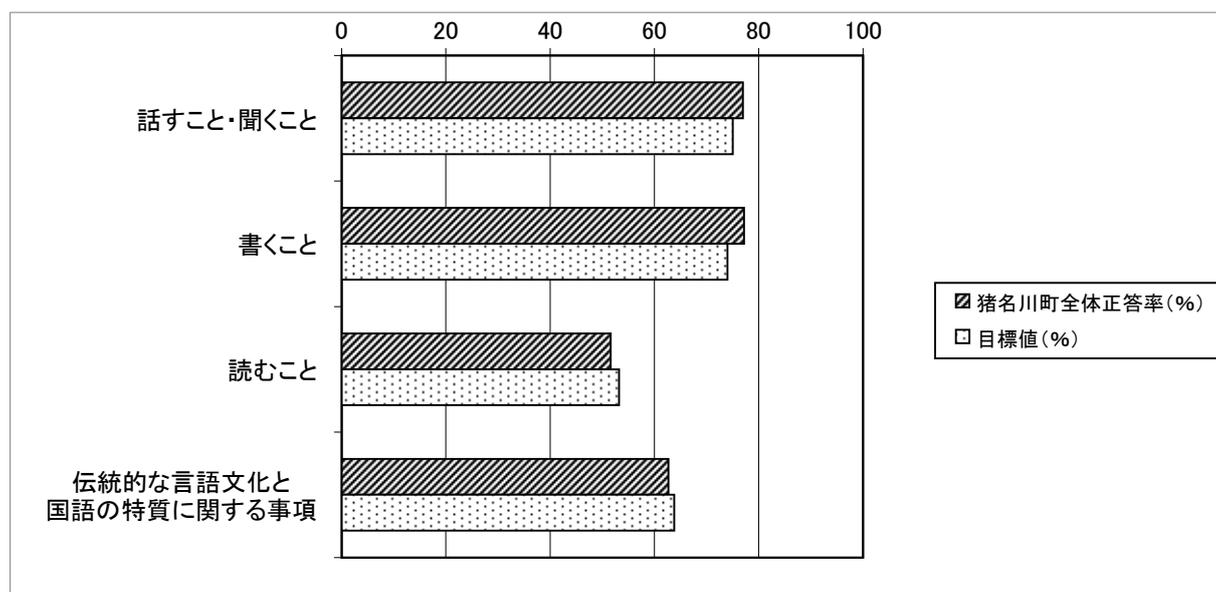
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	63.0	66.9	48.9
目標値 (%)	63.1	66.8	50.0
目標値との差	▲ 0.1	0.1	▲ 1.1



基礎・活用ともに目標値と同程度で、良好である。

(2) 領域別正答率

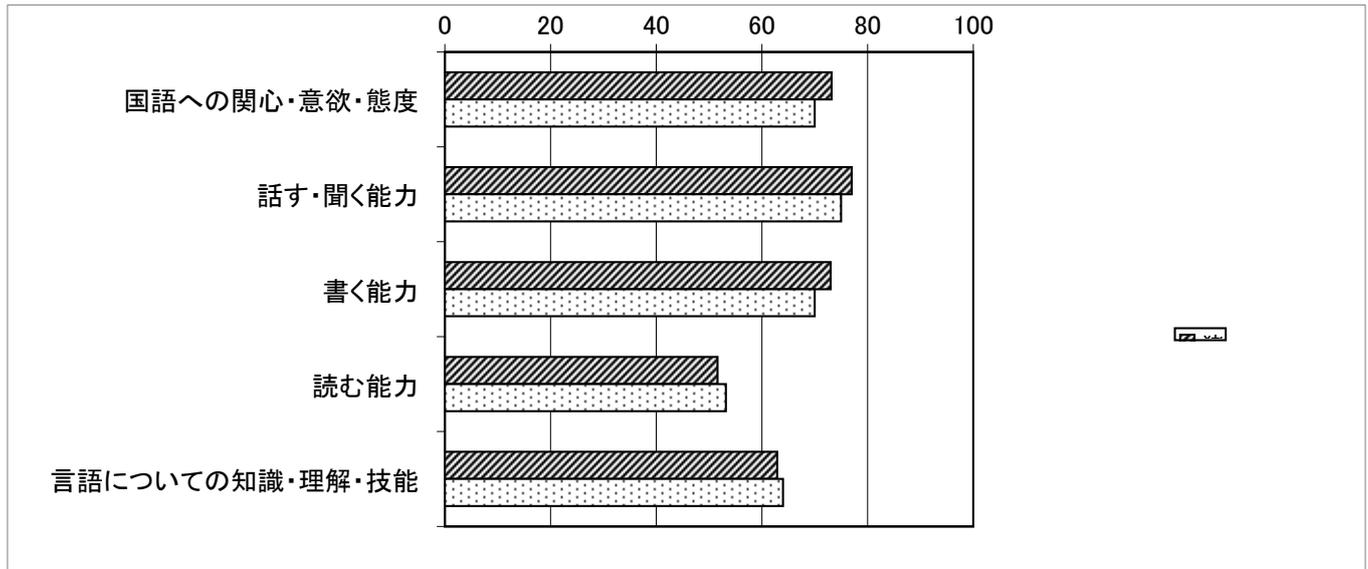
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
猪名川町全体正答率 (%)	77.0	77.2	51.6	62.7
目標値 (%)	75.0	74.0	53.2	63.8
目標値との差	2.0	3.2	▲ 1.6	▲ 1.1



領域別に見ると、全ての領域で目標値と同程度で、良好である。

(3) 観点別正答率

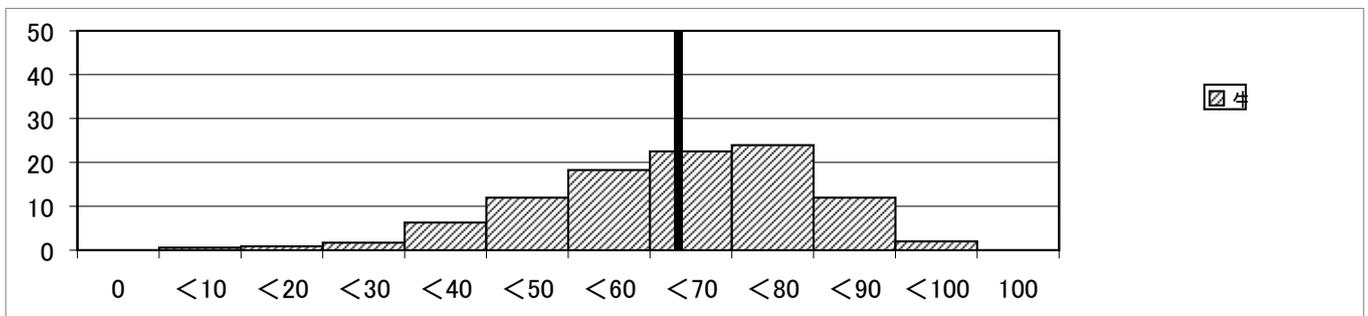
	猪名川町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
国語への関心・意欲・態度	73.2	70.0	3.2
話す・聞く能力	77.0	75.0	2.0
書く能力	73.0	70.0	3.0
読む能力	51.6	53.2	▲ 1.6
言語についての知識・理解・技能	62.9	64.0	▲ 1.1



観点別に見ると、全ての観点で目標値と同程度で、良好である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.6	0.9	1.7	6.3	12.0	18.2	22.5	23.9	12.0	2.0	0.0



町全体で正答率80%以上の生徒が14.0%と昨年度の34.7%より大幅に減少した。また、正答率50%未満の生徒は21.5%と昨年度9.1%より大幅に増加した。上位層が減り、中位層・下位層が増加の傾向にある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(1)①

【漢字を読む】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	83.2	85.0	▲ 1.8	82.6	0.6
出題のねらい	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。				
対策	漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変である。特に大切なことは、学習したことが活用できるような場を設定していくことである。漢字の小テストだけでなく、生徒同士が問題を作って出し合ったり、クイズ形式で学習したりするなど、さまざまな学習の工夫が求められる。				

大問3(2)

【文法・語句に関する知識】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	13.4	30.0	▲ 16.6	17.3	▲ 3.9
出題のねらい	文節の関係について理解している。				
対策	文節の関係について理解しているかを見る問題である。文節については、第1学年で学習する内容であることもあり、第2学年の時点で文節や単語等についての知識を忘れていた生徒も多い。このように文法の場合、学習した時点で理解していても、その知識を活用する場面がないと、なかなか定着しない。そのため、読むことや書くことの学習の中で、こうした知識を意識的に使う場面を設定していく必要がある。				

大問6(2)

【ポスターと発表原稿の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	53.0	55.0	▲ 2.0	54.4	▲ 1.4
出題のねらい	発表原稿の内容を要約して、ポスターにあてはめることができる。				
対策	【ポスター】と発表原稿の【下書き】を比較しながら、ポスターの文言を考える問題である。【ポスター】の空欄を適切に埋める言葉を、【下書き】から探そうとする生徒は多いが、【ポスター】に書かれている情報をきちんと読み取ることができないと、空欄に入る適切な言葉を考えることは難しい。【ポスター】の上部には、「自然と簡潔」というキャッチコピーが出ている。これは【下書き】の第4段落の内容をまとめたものになっているので、空欄に入る言葉は、【下書き】の第5段落の内容を要約して考えていくことになる。				

大問7

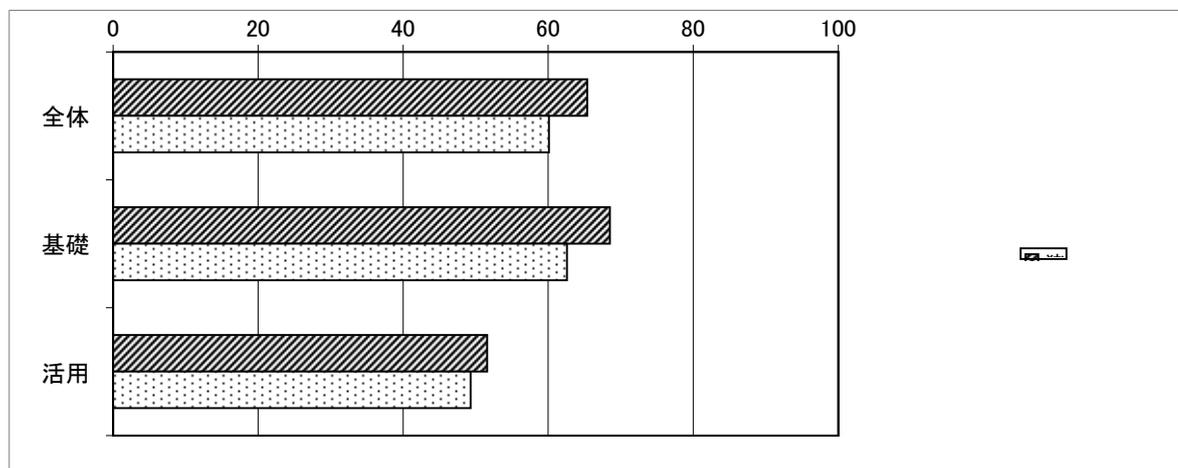
【作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	67.5	70.0	▲ 2.5	72.8	▲ 5.3
出題のねらい	3段落構成で文章を書くことができる。				
対策	文章を3段落構成で書くことができるかを見る問題である。本問では、第一段落に「Aのポスターの特徴」、第二段落に「Bのポスターの特徴」、第三段落に「自分の考え」を書くことが求められている。3段落構成にはいくつかのパターンがあるので、書く練習を繰り返し行い、基本的な書き方に習熟させる必要がある。				

■中学校2年生 数学

(1) 基礎・活用正答率

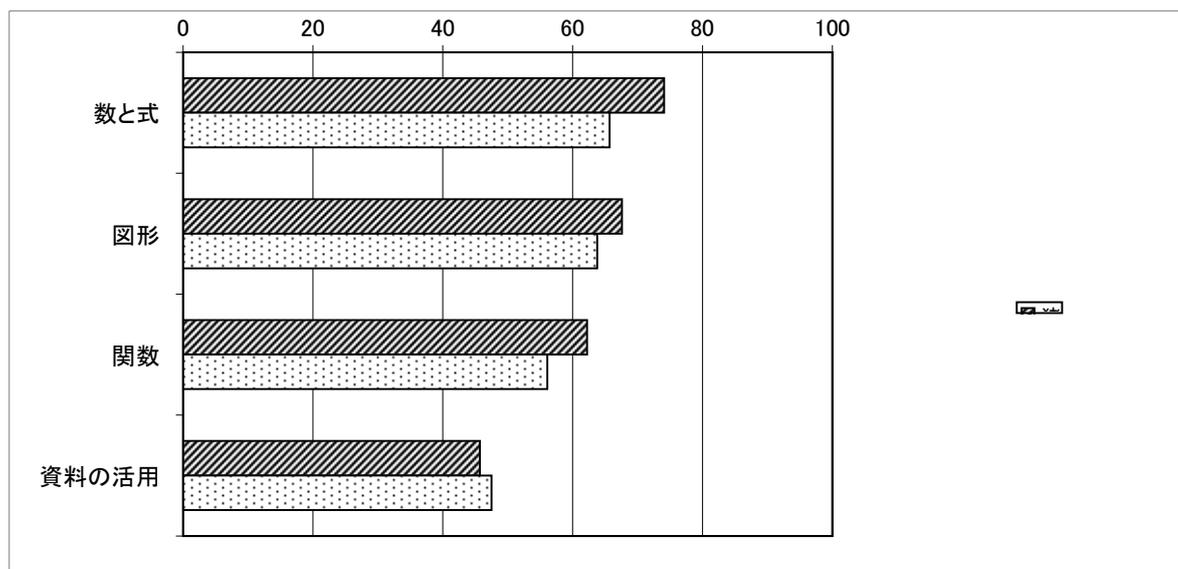
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	65.4	68.5	51.6
目標値 (%)	60.1	62.6	49.3
目標値との差	5.3	5.9	2.3



基礎・活用ともに目標値を上回っており、良好な状態にある。

(2) 領域別正答率

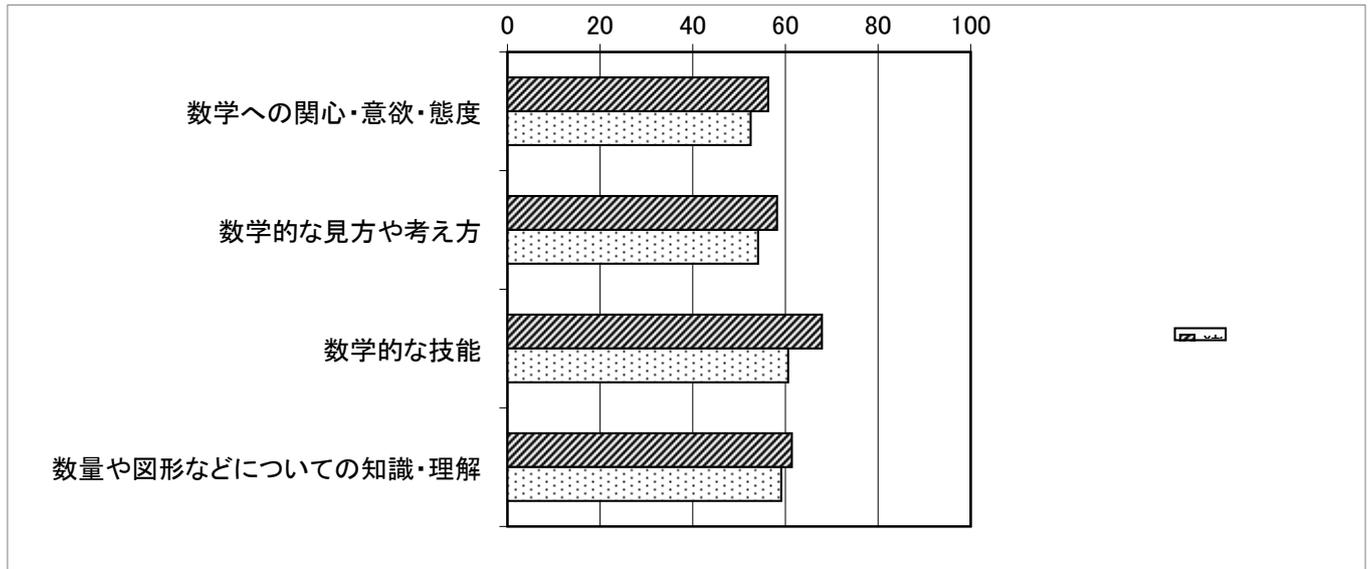
	数と式	図形	関数	資料の活用
猪名川町全体正答率 (%)	74.1	67.6	62.2	45.7
目標値 (%)	65.7	63.8	56.1	47.5
目標値との差	8.4	3.8	6.1	▲ 1.8



領域別に見ると、「数と式」「関数」が目標値を上回っていて、良好である。「資料の活用」については、目標値と同程度であるが、中でも「資料の散らばりと代表値」の問題で、度数分布表から、階級の相対度数を求めることや、最頻値を求めることに課題がある。

(3) 観点別正答率

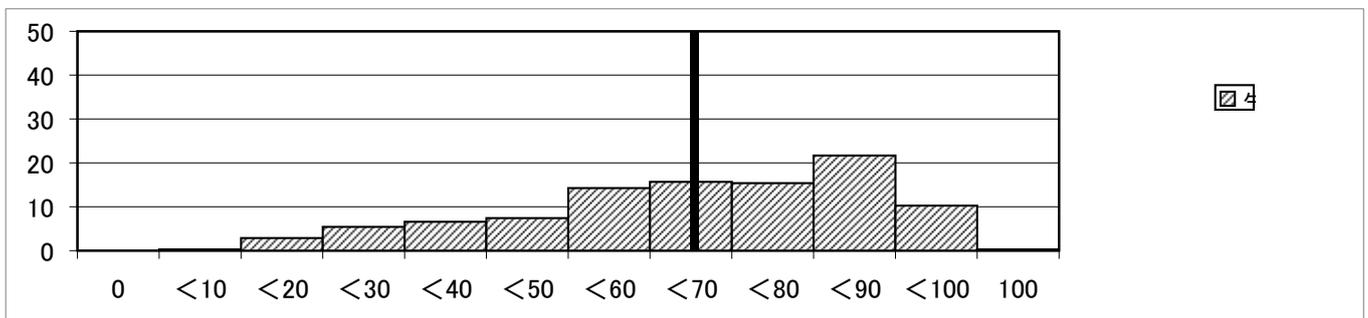
	猪名川町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
数学への関心・意欲・態度	56.3	52.5	3.8
数学的な見方や考え方	58.2	54.1	4.1
数学的な技能	67.9	60.6	7.3
数量や図形などについての知識・理解	61.4	59.1	2.3



観点別に見ると、「数学的な技能」で目標値を上回り、他の観点も目標値と同程度で良好な状態である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.3	2.8	5.4	6.6	7.4	14.2	15.7	15.4	21.7	10.3	0.3



町全体で正答率80%以上の生徒が32.3%と昨年度の28.6%より大幅に増加したが、正答率50%未満の生徒も22.5%と昨年度の16.5%より増加した。上位層が増加して良好な状態だが、反対に下位層も増加しており、課題がある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3

【1次方程式】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	66.1	65.0	1.1	66.2	▲ 0.1
出題のねらい	比例式を解くことができる。				
対策	比は定着しにくい内容なので、同じ比を見つけさせたり、比を簡単にさせたりするなど、まず小学校で学習した内容を復習させるとよい。その上で、比例式の性質を確認し、xの値を求めさせることが大切である。なお、比例式の性質を確認する際、文字による変形は分かりにくいので、具体的な数を用いて指導するとよい。				

大問16(2)

【空間図形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	48.7	55.0	▲ 6.3	53.0	▲ 4.3
出題のねらい	球の体積を求める式を選ぶことができる。				
対策	球の体積については、球又は半球に入れた水を円柱(底面の直径及び高さ=球の直径)に移す実験を通して、「半球の体積=1/3×円柱の体積」、「球の体積=2/3×円柱の体積」の関係を見いだすなど、量感を育む指導を行いたい。その上で、円柱の体積の求め方を基に「球の体積=4/3×πr ³ 」の式をつくり、公式を理解できるようにしたい。球の表面積や円錐の体積についても同様に、実験等を通して、実感を伴った理解を図ることが大切である。				

大問18(2)

【資料の散らばりと代表値】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	20.8	35.0	▲ 14.2	25.3	▲ 4.5
出題のねらい	度数分布表から、最頻値を求めることができる。				
対策	最頻値(モード)とは、度数の最も高い階級の階級値である。平均値、中央値、最頻値の意味をきちんと押さえさせるとともに、それぞれの値がどのような場面で有効なのか、資料の分布状況と関連付けて指導する必要がある。				

大問22(2)

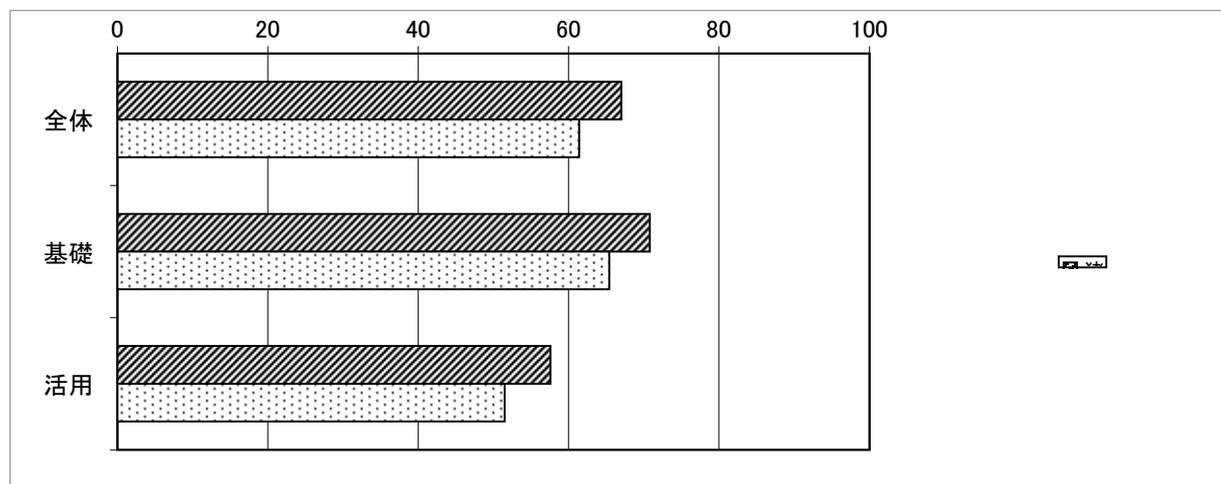
【比例・反比例】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	26.1	30.0	▲ 3.9	29.8	▲ 3.7
出題のねらい	グラフの特徴から、その関数が比例であることを説明できる。				
対策	誤答の主な原因としては、グラフの特徴を理解していないこと、グラフの特徴は理解しているが、どのように記述したらよいのか分からないことなどが考えられる。比例や反比例のグラフの特徴について復習させ、問題のグラフの点を線で結ぶと、グラフは原点を通る直線になることから、yはxに比例すると見ることができることを理解させる。また、比例、反比例のグラフの特徴だけでなく、比例や反比例の式や表についても復習させ、表、式、グラフを一体のものとして捉える力を培うことが大切である。				

■ 中学校2年生 英語B

(1) 基礎・活用正答率

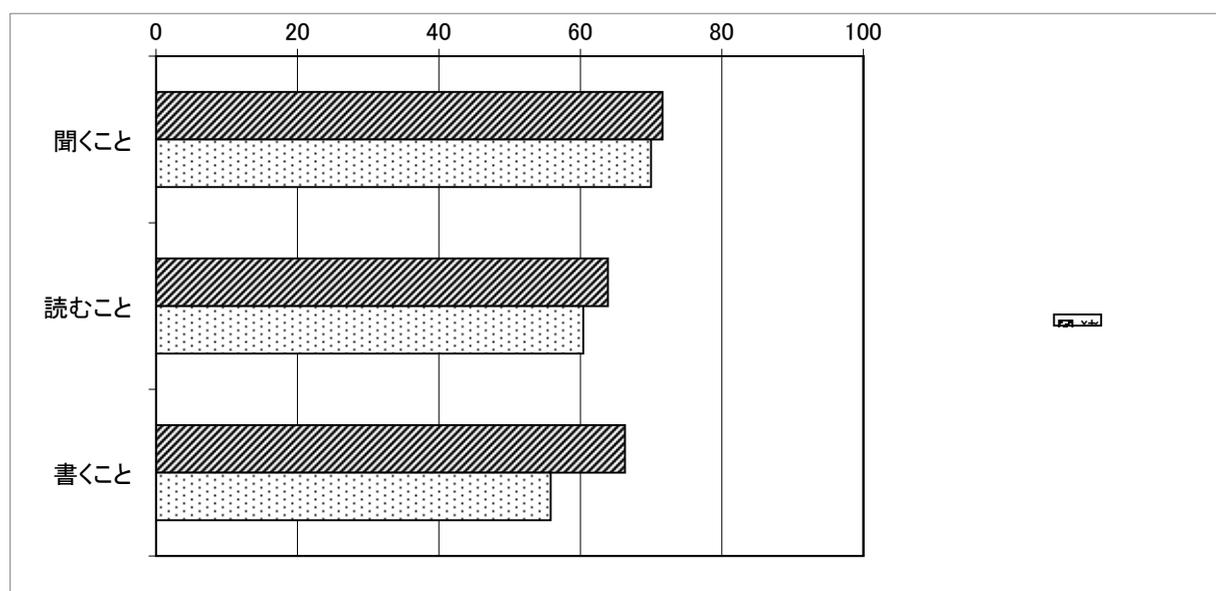
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	67.0	70.8	57.6
目標値 (%)	61.4	65.4	51.5
目標値との差	5.6	5.4	6.1



基礎・活用ともに目標値を上回っており、大変良好な状態である。

(2) 領域別正答率

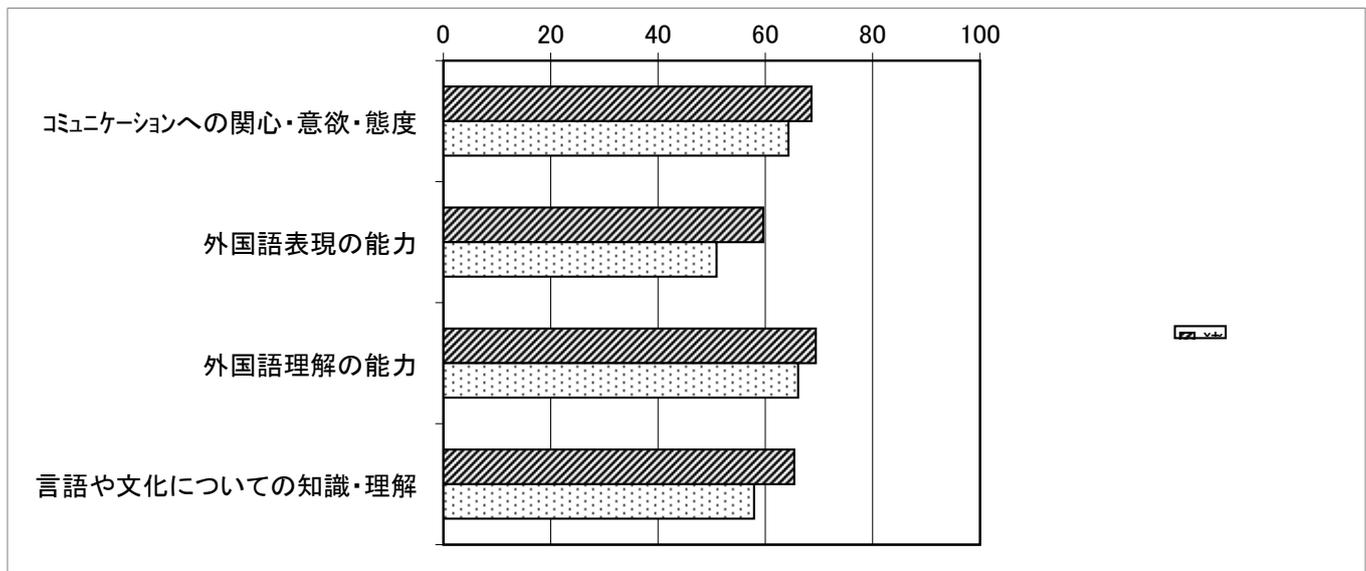
	聞くこと	読むこと	書くこと
猪名川町全体正答率 (%)	71.6	63.9	66.3
目標値 (%)	70.0	60.4	55.8
目標値との差	1.6	3.5	10.5



領域別に見ると、「書くこと」は目標値を大幅に上回っていて、大変良好である。また、「聞くこと」「読むことも」目標値と同程度で良好である。しかし、「長文の読み取り」で思考力を問う短答式の問題に課題がある。

(3) 観点別正答率

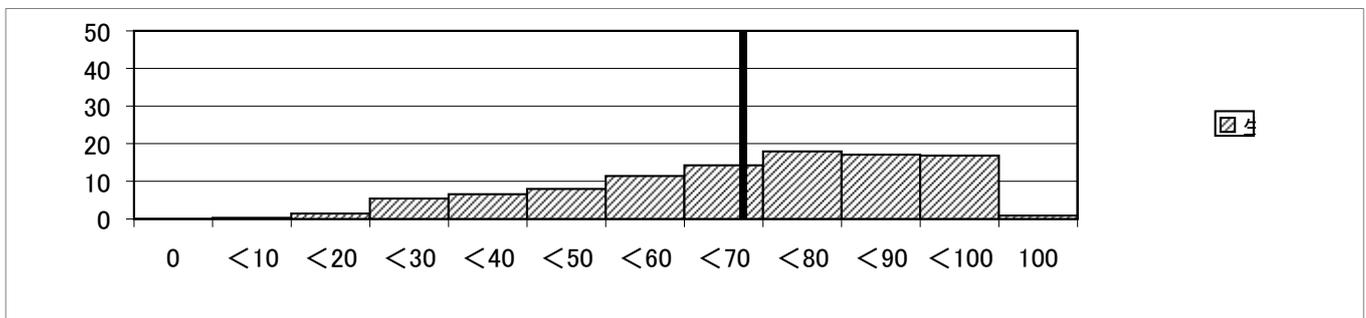
	猪名川町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	68.6	64.3	4.3
外国語表現の能力	59.6	50.9	8.7
外国語理解の能力	69.4	66.1	3.3
言語や文化についての知識・理解	65.4	57.9	7.5



観点別に見ると、「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」で目標値を上回っており、良好である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.3	1.4	5.4	6.6	8.0	11.4	14.2	17.9	17.1	16.8	0.9



町全体で正答率80%以上の生徒が34.8%と昨年度の38.8%より若干減少している。一方、正答率が50%未満の生徒は21.7%と昨年度19.3%より若干増加している。上位層が減り、中位層・下位層が増加の傾向にある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問3(3)

【リスニング（内容理解）】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	36.5	50.0	▲ 13.5	45.6	▲ 9.1
出題のねらい	英文の要点を聞き取ることができる。(先生といつ話すか)				
対策	本問のように情報が多い場合は、メモを取りながら聞き取りをすることも有効な手法である。たとえば、「英語、ブラウン、オーストラリア、日本語○ 漢字×」などのようにキーワードをメモしていくやり方である。メモは英語でも日本語でも構わないので、こうしたメモの取り方を、日頃の授業の中で練習することが大切である。なお、練習方法としては、一度学習済みの英文を使って行うのがよい。				

大問5(1)④

【語形・語法の知識・理解】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	62.1	65.0	▲ 2.9	66.4	▲ 4.3
出題のねらい	語形・語法を理解することができる。(代名詞の目的格)				
対策	人称代名詞の問題であるが、苦手とする生徒も多いため、丁寧に指導することが重要である。教科書や通常のワークブックで、人称代名詞の問題を数多く練習させていく必要がある。大切なことは、答えを書かせる前に、まず声に出して言わせることである。それによって、英語の音として頭に残り、Many students like heでは音的に違和感があることに気付けるよう、繰り返し指導したい。				

大問7(4)

【長文の読み取り】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	23.1	30.0	▲ 6.9	19.4	3.7
出題のねらい	メールの内容を踏まえて、返事を書くことができる。				
対策	You likeの後に続けるものとして、相手が気に入ったものは何であるかを、本文から見つけ出す必要がある。本文中のI like it.に注目して、それが表す英語を探せばよい。このような問題に対する指導として、普段扱っている教科書の内容においても、言い換えられている箇所や、同じことを繰り返している箇所を生徒に見つけ出させるような設問を課すなどの工夫が必要である。				

大問9(2)

【場面に応じて書く英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	45.3	40.0	5.3	43.3	2.0
出題のねらい	英語で提案する文を書くことができる。(サッカーをしようと提案する)				
対策	本問は物事を提案する場合であり、Let'sを使う表現が最も平易であろう。依頼や提案の表現には、ほかにもCan (Will) you ~?, Could you ~?などいくつかの言い方があるが、May I ~?などの許可表現と混同しないように指導する必要がある。単に文法的な知識を指導するのではなく、具体的な場面を設定して、コミュニケーション活動の中でこれらの表現を使わせながら定着を図ることが大切である。				